

お野立所の新築設計に係る公募型プロポーザル審査の結果、最優秀提案者が選定

第68回全国植樹祭のシンボルとなる、お野立所の新築工事設計業務に係る公募型プロポーザルを実施し、審査委員会(委員長:秦 正徳 富山大学学長補佐)において、最優秀提案者に株式会社 創建築事務所(代表取締役 藤井均)が選定されました。

最優秀提案者の提案内容

(1)コンセプト

大会テーマ「かがやいて 水・空・緑のハーモニー」に沿って、富山県の豊かな自然や伝統文化を表現した「富山らしい」デザインとするとともに、県産材をふんだんに使用して木の良さをPR

(2)特徴

- ①県産杉丸太を使用し、「立山連峰」や「散居村の屋敷林」、本県の林業を象徴する「杉の木立」、「こきりこのササラ」など「富山県らしさ」を表現
- ②丸太の柱と屋根を支える小径材により開放的な空間を作り出すとともに、県産材をふんだんに利用して県産材や木造建築の魅力を発信
- ③基礎に鉄板と鉄骨を用いるとともに、ユニット化された木構造で、コストの縮減、工期短縮及び開催後の容易な移設・再利用を提案



提案されたお野立所のイメージ

県産材を活用したベンチ、プランターカバーを製作中

全国植樹祭で使用する、県産材を活用したベンチ、プランターカバーを製作しています。



ベンチ



プランターカバー

県民参加で植樹祭に使用する苗木を育成中

苗木のホームステイ

全国植樹祭や関連イベントなどで植樹する苗木を、県内の小中学校、花とみどりの少年団、森づくりボランティア団体・企業等のみなさんに育てていただいています。

『苗木のホームステイ』実施状況

年度	団体数	苗木本数
H26	96団体	3,498本
H27	46団体	3,252本
計	142団体	6,750本

立山花とみどりの少年団 (立山町立立山小学校)

元気に育つようにと願いを込め、一つひとつ丁寧にどんぐりを植えました。芽がでるのが待ち遠しいです。



大建工業株式会社 井波工場

コナラを120本、オニグルミを60本育てています。社員が交代で水遣りを行っており、施肥もしました。どれだけ成長するか楽しみです。



魚津市立住吉小学校

どんぐりの苗木は思ったよりも大きくなって、少し驚きました。これから水やりなどのお世話をがんばり、大切に育てていきたいです。



高校生による苗木の育成

全国植樹祭で植樹する広葉樹や優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の苗木を、県立中央農業高校と県立上市高校のみなさんに育てていただいています。



お問い合わせ

第68回全国植樹祭富山県実行委員会事務局
(富山県農林水産部森林政策課内)



〒930-8501 富山県富山市新総曲輪1番7号
TEL 076-444-4077 FAX 076-444-4428
URL <http://www.68syokujusai-toyama.jp/>

第68回全国植樹祭 富山 検索



第68回全国植樹祭のホームページを開設しました。ホームページも見てね!



全国植樹祭だより

とやま2017

創刊号
平成27年11月



平成29年春季 第68回全国植樹祭を 富山県で開催します!

主催：公益社団法人国土緑化推進機構 富山県

全国植樹祭とは・・・

全国植樹祭は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるため、昭和25年から毎年、全国持ち回りで開催されている国土緑化運動の中心的行事で、天皇皇后両陛下のご臨席が通例となっています。

富山県では、昭和44年に砺波市「頼成の森」で第20回大会を開催して以来、48年ぶり2回目の開催となります。



第20回全国植樹祭(昭和44年)で、会場いっぱいになる参加者(県民公園頼成の森)

大会の開催方針

全国植樹祭の開催を契機に、県民参加による健全な森づくりの一層の推進と森林資源の循環利用の促進による林業再生を図るとともに、森づくりと海づくりを一体的にとらえ、豊かな自然を守り育てる県民の活発な実践活動やそこで育まれた歴史・文化など富山県の数多くの魅力を全国にアピールし、緑あふれる自然といきいきと人が輝くふるさとを未来へつなぎます。

●「県民参加の森づくり」の一層の推進

本県では、平成18年に「富山県森づくり条例」を制定し、平成19年から「水と緑の森づくり税」を活用して、地域住民との協働による里山再生や、先駆的な支援を行っている「とやまの森づくりサポートセンター」を通じた、ボランティアグループや企業をはじめ幅広い県民参加の森づくり活動に取り組んでいます。

この開催を県民参加の森づくり活動をさらに広げる契機とし、本県の豊かな森を県民共通のかけがえのない財産として、次の世代に引き継いでいきます。

水と緑の森づくりの主な実績 (H19-H26:8年間)

- 里山林を県民協働で整備 2,111ha
- スギと広葉樹の混交林の整備 1,118ha
- 県民参加による森づくりの年間参加延べ人数 (H17)1,672人⇒(H26)11,395人
- 優良無花粉スギをH24年度から約2万本生産し、県内に植樹

●県産材活用による林業・木材産業の振興

この大会では、県産材を積極的に活用し木の良さをPRすることにより、森林資源の循環利用を促進し、林業・木材産業の振興につなげていきます。

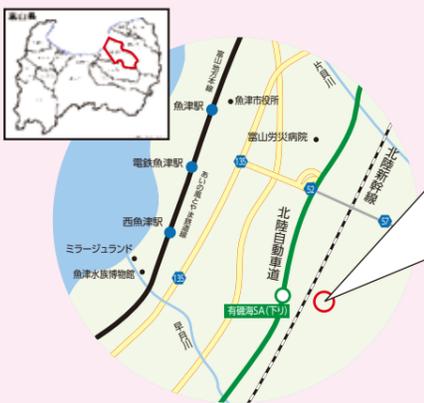
●優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の普及

全国に先駆けて開発した優良無花粉スギ「立山 森の輝き」を持続可能な森づくりを推進する上で必要な植林(再造林)の切り札として全国に普及します。

●「森づくり」と「海づくり」の連携

平成27年10月に本県で開催された「第35回全国豊かな海づくり大会」以降も、森づくりと海づくりを一体的にとらえ、豊かな自然を守り育てる県民の活発な実践活動を全国に発信します。

開催会場



- 式典会場 魚津桃山運動公園
- 植樹会場 魚津桃山運動公園ほか 6か所程度 (周辺市町村から選定予定)



会場から見る山の眺望



会場から見る海の眺望

森・川・海が一体的に実感できるなど、開催理念や本県の魅力を全国の皆さんに発信できる「魚津桃山運動公園」(魚津市出)を舞台に、開催します。

大会テーマ

『かがやいて 水・空・緑のハーモニー』

森・川・海という言葉を使わずに、立山連峰から富山湾までの輝きが映像のように浮かんでくる作品で、優良無花粉スギ「立山 森の輝き」や北陸新幹線「かがやき」が連想されるとともに、森づくりと海づくりの連携などの大会の基本方針を親しみやすい言葉で表現しています。作者 濱田 典佳さん(黒部市) 全国から応募のあった1,434点の中から選定しました

シンボルマーク



作者 ShioDesign 塩崎 歩美氏 (「きときと君」のデザイナー)

若葉とシャベルを手に植樹のお手伝いをする「きときと君」を中心に、周りに立山連峰から本県の豊かな森(優良無花粉スギ「立山 森の輝き」)、富山湾とそこに流れ込む川を配し、森づくりと海づくりを一体的にとらえ、豊かな自然を守り育て、輝くふるさと富山を未来へつなぐ県民の姿をイメージしています。

大会ポスター原画



作者 浅井さくらさん (富山市立東部中学校3年) 画題 「森と水と」

制作意図:森が豊かになれば、水も栄養豊富なものになり、最終的には、海も豊かになるんじゃないかと思われ、考えたことを表したいなと思い、描きました。

富山県内の小中学校の児童・生徒から応募のあった654点の中から選定しました。

お手植え・お手播き樹種

富山県が「環境先端県」や「桜の宝庫」であることをアピールでき、本県の自然条件に合った、県民に親しみのある樹種を選定しました。

《天皇陛下》本県の森林・林業を象徴する樹種

お手植え(3種)



タテヤマスギ
優良無花粉スギ
「立山 森の輝き」



コシノヒガン
本県発祥の長寿のサクラ



ヒメコマツ
アルペンルートの代表種
合掌造りの柱

お手播き(2種)



エドヒガン
日本を代表する
長寿のサクラ



タブノキ
海岸に生育、森と海を結ぶ象徴

《皇后陛下》雪国である本県の里山を花で彩る樹種

お手植え(3種)



コシノフユザクラ
本県固有の二度咲きのサクラ



キタコブシ
雪国の春を象徴する花



ホオノキ
万葉集では富山でのみ詠まれた

お手播き(2種)



ヤマザクラ
菊と並び日本を象徴する花



マルバマンサク
合掌造りの木組みの結束材